



※SPレコードを聴く中村とうよう氏（大学生当時）

中村とうようコレクションを聴く

機械録音時代のSPレコードを中心に

会 期 | 2011年12月16日(金) 16:30開場 17:00開演
会 場 | 武蔵野美術大学 美術館ホール
選 曲 | 中村とうよう
解 説 | 田中勝則（音楽評論家、ライスレコード代表）
入場料 | 無料
主 催 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館

当館主催による「中村とうようコレクション展 楽器とレコードを中心に」の関連企画として予定されていたSPレコード・コンサートを、中村とうよう氏が遺した選曲リストをもとに再現します。解説の代役は、生前の中村氏と共に国内のワールドミュージックを牽引してきた田中勝則氏が務めます。

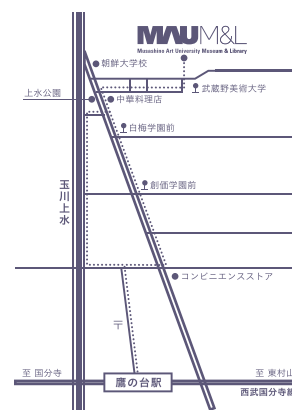
1887年、円盤形のいわゆるSPレコードが発明されたことによって、録音物としての音楽がはじめて大衆に親しまれるようになります。そこから、およそ1950年まで、録音メディアとともに成長してきた大衆音楽の歴史の半分近くがSPレコードの時代と言えます。

中村とうようコレクションには、20世紀初頭のアメリカ音楽をはじめ、同時代のラテン・アメリカ音楽やヨーロッパ音楽、さらにはアラブやアジア、明治時代の日本の音楽など、多彩な地域のSPレコードが所蔵されています。

そんな数あるレコードの中から本企画のために中村氏が選んだレコードは、電気を使わずに音楽を録音し再生していた機械録音時代の音楽でした。SPレコード時代の前半にあたる1925年までは、手巻きの蓄音機による再生はもちろんのこと、録音も電気を使用することなく行われていました。また、この時代にはいくつものレコード会社が誕生し、世界各地の大衆音楽がレコード化のために録音されました。

インターネットによる音楽配信が盛んな現代において、中村氏が本企画を通じて紹介しようとした音楽は、録音メディアによる音楽がまさに大衆文化として根付こうとしていた、それら機械録音時代のSPレコードでした。

当時の活気ある演奏が収録されたSPレコードを、中村氏本人が所有していた蓄音機ウィクトローラの音で聴くことのできる、またとない機会です。貴重な音源を楽しむとともに、中村氏のまなざしを感じとっていただけることでしょう。



武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505
東京都小平市小川町 1-736
042-342-6003
<http://mauml.musabi.ac.jp/>

交通

1. JR 中央線「国分寺」駅乗換、西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩約20分
2. JR 中央線「国分寺」駅下車徒歩3分、西武バス「国分寺駅北入口」停留所発、「武蔵野美術大学」停留所下車（バスの乗車時間約20分）